

# 平成30年度事業成績書

## 第1 会議関係

### 1 常務理事会

#### 第1回

平成30年 5月10日

更生保護会館

出席者 10人

#### 「議事事項」

- ① 平成29年度事業成績書（案）
- ② 平成29年度一般会計収支決算及び傷害共済特別会計収支決算（案）
- ③ 理事の選任（案）
- ④ 評議員の選任（案）

#### 「協議事項」

今後の更生保護施設の在り方等について

- ・「更生保護事業の在り方に関する意見交換会」等について

#### 「報告・連絡事項」

○全更連

- ・平成30年度行事予定について

#### 第2回

平成30年10月17日

更生保護会館

出席者 11人

#### 「協議事項」

全更連として取り組むべき事項等

- ① 更生保護事業の在り方検討について
- ② 更生保護施設の経営分析について
- ③ 経営研究会、連絡助成事業運営協議会について
- ④ 平成31年度事業計画について
- ⑤ 通常財産の運用変更について

#### 「報告・連絡事項」

○保護局

- ・平成31年度予算概算要求の概要について

○全更連

- ・平成31年度行事予定（案）について

#### 第3回

平成31年 2月8日

アルカディア市ヶ谷

出席者 10人

#### 「議事事項」

##### (1) 第3回理事会の審議事項

- ①第1号議案 平成31年度事業計画（案）
- ②第2号議案 平成31年度一般会計収支予算  
及び傷害共済特別会計収支予算（案）
- ③第3号議案 評議員の選任（案）

##### (2) 第2回評議員会の審議事項

- ①第1号議案 平成31年度事業計画（案）
- ②第2号議案 平成31年度一般会計収支予算  
及び傷害共済特別会計収支予算（案）

#### 「協議」

- ① 「更生保護施設の在り方に関する検討」取りまとめ方策と今後のスケジュール

## 2 理事会

### 第1回

平成30年 5月17日

更生保護会館

理事総数 18人

出席者 12人

監事 2人

#### ② その他

「報告・連絡事項」

○全更連

平成31年度行事予定（案）

### 第2回（書面議決）

平成30年 7月 1日

理事総数 19人

回答人員 19人

「議案」

第1号議案 常務理事の互選 . . . . . 原案どおり承認

その他 議事録署名人の選任 . . . . . 原案どおり承認

### 第3回

平成31年2月22日

更生保護会館

理事総数 19人

出席者 14人

監事 2人

「議案」

第1号議案 平成31年度事業計画（案） . . . . . 原案どおり承認

第2号議案 平成31年度一般会計収支予算（案）  
及び傷害共済特別会計収支予算（案） . . . 原案どおり承認

第3号議案 評議員の選任（案） . . . . . 原案どおり承認

「報告・連絡事項」

○保護局

- ・「更生保護事業の在り方に関する検討」今後のスケジュール
- ・平成31年度更生保護関係予算案の概要
- ・今年度受入実績・委託費執行状況
- ・働き方改革について等

○全更連

- ・平成31年度行事予定

## 3 評議員会

### 第1回

平成30年 5月21日

更生保護会館

評議員総数 39人

出席者 29人

「議案」

第1号議案 平成29年度事業成績書（案） . . . . . 原案どおり承認

第2号議案 平成29年度一般会計収支決算（案）  
及び傷害共済特別会計収支決算（案） . . . 原案どおり承認

	第3号議案 理事の選任(案) . . . . . 原案どおり承認
	「報告・連絡事項」
	○全更連
	・平成30年度行事予定
	○保護局
	・これからの更生保護事業の在り方に関する検討について
	・更生保護費委託予算について
	・成年被後見人等に係る欠格条項の見直し等について
第2回	
平成31年 3月 7日	「議案」
更生保護会館	第1号議案 平成31年度事業計画(案) . . . . . 原案どおり承認
評議員総数 39人	第2号議案 平成31年度一般会計収支予算(案)
出席者 29人	及び傷害共済特別会計収支予算(案) . . . 原案どおり承認
	「報告・連絡事項」
	○保護局
	・「更生保護事業の在り方に関する検討」今後のスケジュール
	・平成31年度更生保護関係予算案の概要
	・今年度受入実績・委託費執行状況
	・働き方改革について等
	○全更連
	・平成31年度行事予定
<b>4 傷害共済審査委員会</b>	
第1回	
平成30年 4月25日	① 「播磨保正会：調理員(パート)」
新宿高島屋会議室	夕食準備のため調理作業中、解凍肉を切っていた際、勢い余って左手親指を
構成員 8人	1. 5cmほど切ったもの。
出席委員 8人	14日の通院給付。(給付決定)
	② 「たちばな会：調理員」
	朝食及び昼食の弁当の調理終了後、帰宅途中に転倒して左目横をすりむくなどしたもの。
	6日の通院給付。(給付決定)
第2回(書面議決)	
平成30年11月8日	「みやざき青雲：補導員」
構成員 8人	食堂の扉を修理中、蝶番を外す際、蝶番のバネが顔左眉部に当たり負傷した
回答委員 8人	もの。
	5日の通院給付。(給付決定)
第3回(書面議決)	
平成31年1月24日	「更新会：施設長」
構成員 8人	勤務を終えて帰宅のため「更新会」から都電「早稲田駅」に向かう途中、新宿区西早稲田1-21-1先路上において、転倒し、左アキレス腱断裂の負傷を
回答委員 8人	したもの。
	35日の入院給付、21日の通院給付。(給付決定)

## 第2 事業計画関連事業等

「再犯防止推進計画」の中で示された重点課題と具体的施策の遂行に当たり、平成30年度から「更生保護事業の在り方」の検討、特に罪名・嗜癖等本人の問題性などにより受入れが進みにくい者や処遇困難な者を更生保護施設で受け入れるための体制整備を推進して処遇機能の充実を図ること、及び地域で生活する刑務所出所者等に対する支援や処遇を実施するための体制整備を図ること等の検討が進められている。

当連盟としては、「更生保護事業の在り方」を検討するために保護局が設置した「有識者による検討会」及び「実務者による意見交換会」に協力し、更生保護事業における課題及び展望について議論を深めた。加えて、「更生保護委託費の在り方」の検討作業の一環として保護局が実施した「更生保護施設の経営状況の把握及び経営分析」について協力し、相応の成果を挙げるに至った。

また、更生保護施設経営研究会及び連絡助成事業運営協議会において、「更生保護事業の在り方」や「更生保護施設経営分析」をテーマに取り上げ、継続保護事業及び連絡助成事業の進むべき方向性について研究協議を重ねて来た。

さらに、当連盟主催によるSST研修、保護局との共催による更生保護施設の管理研修及び新任補導職員研修等を通じ、処遇機能の充実と施設職員の能力向上に努めたほか、施設退所後のフォローアップ事業を一層推進し、被保護者に対する円滑な社会復帰に努めた。

平成31年度予算政府案において、平成30年度に補導員の増配置が認められた22施設における当該補導職員の配置経費を平年度化するための経費が認められ、平成29年度からの全更生保護施設における職員配置基準の1名増が完成した。当連盟としては、引き続き法務大臣はじめ関係当局等に働き掛けを行い、職員体制の充実・強化に努めていく。

### 1 更生保護施設の処遇機能の充実強化

#### (1) 少年関係更生保護施設基本問題研究会

主 催：更生保護法人 全国更生保護法人連盟

開 催 日：平成30年8月2日（木）及び3日（金）

開催場所：福岡少年院、福岡保護観察所、田川ふれ愛義塾

研 究 員：8名

少年関係更生保護施設の施設長又は補導職員

概 要：本研究会は、少年を取り巻く社会環境の変化、取り分け少年法適用年齢引き下げに伴う保護観察処遇の在り方が問題となるほか、従来から各少年施設が抱える諸問題の解決策や少年の特質性を踏まえた効果的な少年処遇の在り方について、関係施設の補導職員が中心となって研究することにより、もって少年関係更生保護施設における運営及び処遇の充実・強化を図ることを目的として実施した。

第一日目は、福岡少年院において、同院を見学後、院長からの説明や質疑応答があった。その後、福岡保護観察所において、九州管内更生保護施設（少年処遇）の実情や各少年更生保護施設が抱える問題等について活発な議論が交わされた。

第二日目は、更生保護施設「田川ふれ愛義塾」の内外を見学し、工藤理事長から同施設の現状や少年に対する接し方等について同氏の更生保護に対する熱い思いが語られた。

#### (2) 更生保護施設におけるSST研修

主 催：更生保護法人 全国更生保護法人連盟

開 催 日：平成30年9月6日（木）及び7日（金）

開催場所：アルカディア市ヶ谷

研修員：32名

研修内容：更生保護施設の被保護者には対人関係の改善を必要とする者が多く、SSTは、被保護者の自立を促進するための有効な処遇方法の一つであるところ、更生保護施設の補導職員を対象として、SSTに関する基礎的な知識及び技術等を修得することにより、更生保護施設における処遇の充実を図ることを目的として実施した。

4名の外部講師から講義やグループ別による指導（自己紹介、SSTの基本理論、SST練習、質疑応答、感想等）を受けたほか、研修参加者が講師全員の個別指導が受けられる方法が採られ、研修生のやりたいこと、例えば個人SSTかグループSSTか、それらを行う場合の問題点等を披瀝しながら、それに対してどうするかを研修生同士で考え、講師のアドバイスを受けながら練習を行うなどした。多くの研修参加者から、「面白かった、ためになる、緊張した、疲れた、満足、仲間を感じた、次回も楽しみ、元気が出た、リラックスできた、すぐにやれそう。今後もSST研修に参加したい。他の職員にも参加させたい。」などの感想が寄せられた。

### (3) 更生保護施設管理研修

主催：法務省保護局

更生保護法人 全国更生保護法人連盟

開催日：平成30年10月29日（月）及び10月30日（火）

開催場所：法務省赤れんが棟

研修員：17名

研修内容：比較的経験年数の少ない更生保護施設の施設長に対して、施設の責任者として、業務の管理、処遇の企画、職員の統括及び地域社会との調整に必要な知識等の向上を図ることを目的として実施した。

更生保護法人理事長、施設長や外部講師による「更生保護施設に期待される役割」、「更生保護施設における処遇」、「処遇における危機場面での対応」等についての講義やグループ討議等があり、施設の責任者として大変有意義な研修となった。

### (4) 新任更生保護施設補導職員研修

主催：法務省保護局

更生保護法人 全国更生保護法人連盟

開催日：平成31年2月26日（火）及び27日（水）

開催場所：法務省浦安総合センター

研修員：66名

研修内容：比較的経験年数の少ない更生保護施設の補導主任、補導員、福祉職員及び薬物専門職員を対象に、職務遂行に必要な処遇に関する基礎的な知識を修得することを目的として実施した。

更生保護施設理事長・施設長や外部講師による「更生保護施設に期待される役割」、「面接の基本と対象者との接し方」、「更生保護施設における処遇」等の講義及び班別討議やホワイトボードを使用した全体発表等、活発な討議、意見交換が行われ、充実した研修となった。

## 2 更生保護法人の組織運営、事業内容の充実強化に向けた取組

### (1) 連絡助成事業運営協議会

主 催：更生保護法人 日本更生保護協会

更生保護法人 全国更生保護法人連盟

開 催 日：平成31年1月24日（木）

開催場所：更生保護会館

協 議 員：連絡助成事業を営む更生保護法人役員又は事務局長のうち1名  
52名

協議内容：本協議会は、本年が「再犯防止推進計画元年」であることを踏まえ、昨年  
に続き、『地方公共団体等と連携した再犯防止施策の推進について』  
をテーマに取り上げ、地方公共団体や更生保護関係諸団体等と連携して  
進めている再犯防止に関する取組について発表を行うと共に、更生保護  
協会が地域の再犯防止を推進するためにどのようなネットワークを築い  
ていったらよいか、今後の連絡助成事業の在り方を考える上での一助と  
したいとの考えから協議を行った。再犯防止に関する取り組みが進んで  
いる「滋賀県」、滋賀県が総合的に地域の再犯防止を推進できるように  
情報提供をはじめとした支援・協力関係を築いている「大津保護観察所」、  
さらに、犯罪防止地域支援員設置事業の委託を受けて、協力雇用主に係  
る情報管理及び医療・福祉機関やハローワーク等関係機関とのネットワ  
ークづくり等を支援している「滋賀県更生保護事業協会」、これら国・  
自治体・民間の三者から連携事例が紹介された。また、関係機関・団体  
の協力を得て、ミーティングや学習会を継続し、薬物やアルコール依存  
者のための回復支援体制「ポラー・ベアーズ」を立ち上げた「旭川更  
生保護協会」の取組事例が紹介された。これらの基調報告を踏まえ、質  
疑応答・協議が行われ、他の協議員からも意見発表がなされるなど、協  
議会は活発なものとなった。

### (2) 更生保護施設経営研究会

主 催：法務省保護局

更生保護法人 全国更生保護法人連盟

開 催 日：平成31年2月7日（木）及び8日（金）

開催場所：アルカディア市ヶ谷

研 究 員：約190名

継続保護事業を営む更生保護法人等の役職員

各地方更生保護委員会更生保護管理官

協議内容：本研究会は、継続保護事業を営む更生保護法人等の役職員の  
参集を求め、経営者としての立場から、更生保護施設の経営面  
における諸課題について研究協議を行い、継続保護事業の発展を図るこ  
とを目的として実施した。

第一日目は、毎日新聞社論説委員 野村和弘氏から「更生保護事業者  
への期待」と題して、更生保護施設が再犯防止において重要な役割を担  
うことが期待されている中、社会や地域において必要とされ、これまで  
以上に役割を果たすための更生保護施設の在り方について、貴重なご示  
唆をいただいた。研究員からは、「野澤氏の講演は素晴らしかった。」、  
「野澤論説委員の話は、新鮮で含蓄の多いもので感銘を受けた。今後の  
寮生との接し方等参考にしたい。」などの感想が寄せられた。

次に、全更連の関口事務局長の司会進行により協議が行われ、保護局

から、「財務省による予算執行調査の結果及び平成31年度政府予算案の概要」、「更生保護事業の在り方検討について等（①更生保護事業の現状、②意見交換会中間報告（案）に掲げられている協議の8本柱について）」の行政説明があった後、8本柱の論点を中心に全体協議を行った。研究員からは、「8つの論点に絞った協議が行われ、全体にメリハリがあり、充実した会議になった。」、「資料が充実しており、分かりやすい協議だった。」、「次年度以降実施される各ブロック会議において、更に深めた議論を期待したい。」、「更生保護法人の運営に当たる人達に夢や希望・心のゆとりを持たせる協議であって欲しい。」等の感想が寄せられたほか、自立準備ホームの位置付け、委託費増額分の振り分け、危機管理、処遇の見立て等についての議論や行政に対する要望なども開陳されるなど活発な協議となった。

第二日目は、福祉医療機構の千葉正展氏、本地央明氏の両名による「継続保護事業を営む更生保護法人等の経営分析結果」の報告がなされ、質疑応答が行われた。研究員からは「数値、基準が明確で、マニュアルとして有効。施設経営を行っていく上で大変参考になった。今後も定期的にこのような報告がなされるとありがたい。経営分析の結果については、当然のことと思っただが、他施設との比較は参考になった。」等との感想が寄せられた。次に、関口事務局長の司会進行により、「更生保護施設における経営努力の実践について」の協議が行われた。「愛媛県更生保護会」、「岐阜県共助会」から取組報告がなされ、それに対する質疑応答があった。研究員からは「愛媛県保護会の発表が良かった。暗闇の中に光を見出すことができた。研究会にふさわしい内容だった。岐阜県共助会の理事長のお話は、とても説得力があって感銘を受けた。各施設のアイデア、取組が紹介され、今後の経営に大いに参考となった。」等との感想が寄せられた。

(3) 平成30年度地方別更生保護施設補導職員実務研修会

各地方更生保護施設連盟及び地方更生保護委員会が主催するブロックごとの標記研修が実施されたので、当連盟から開催場所等にかかる費用の助成を行った。

(4) 刑務所出所者等に対する福祉支援に係る事例研究会

矯正施設、保護観察所、指定更生保護施設、地域生活定着支援センターの職員等を研究員とし、刑務所出所者等に対する福祉支援の取組に関する事例研究をするなど、関係機関相互の連携及び能力向上を図る目的で、各地方更生保護委員会等の主催により標記研究会が実施されたので、当連盟から開催場所等に係る費用の助成を行った。

3 関係機関・団体との連携

法務省保護局、更生保護法人日本更生保護協会、更生保護法人全国保護司連盟、認定特定非営利活動法人全国就労支援事業者機構等更生保護関係機関・団体との連携を一層強化するとともに、更生保護事業に係る各施策が円滑に推進するように努めた。

4 更生保護事業の広報の充実

全更連会報を2回（No.145号、No.146号）発行した。

5 予算の確保

更生保護法人関係予算について、更生保護委託費、更生保護事業費補助金等の予算増額が図れるよう、関係機関・団体に働き掛けるなど積極的な活動を展開した。

6 地方組織に対する助成

地方更生保護施設（事業）連盟等が行う総会及び研究会等、あるいは個々の更生保護施設の行事に対して助成を行った。

7 傷害共済規程に基づき、適正かつ円滑な運用を図った。本年度の傷害共済給付金については4件の申請があり、審査の結果、いずれも公務傷害と認められ、申請どおり給付決定された。

8 表彰及び慶弔・見舞い

平成30年9月27日開催の「保護司等中央研修会」において、顕彰及び慶弔規程に基づき、更生保護法人等の役職員に対する功労表彰、慶弔儀礼等を行った